

神社・仏閣等、所有者・管理者様へのご提案

(1)

文化財のデジタル復元による 文化財・文化的資料の活用と保存

合資会社 文化財復元センター

代表者 大隈 剛由

〒619-0237

京都府相楽郡精華町光台1丁目7
けいはんなプラザ ラボ棟5階
ホームページ

[文化財復元 co.jp]
<http://www.fukugen.co.jp/>

TEL 050-1058-8025
FAX 0774-39-7091
E-mail information@fukugen.co.jp

神社・仏閣等、所有者・管理者様へのご提案

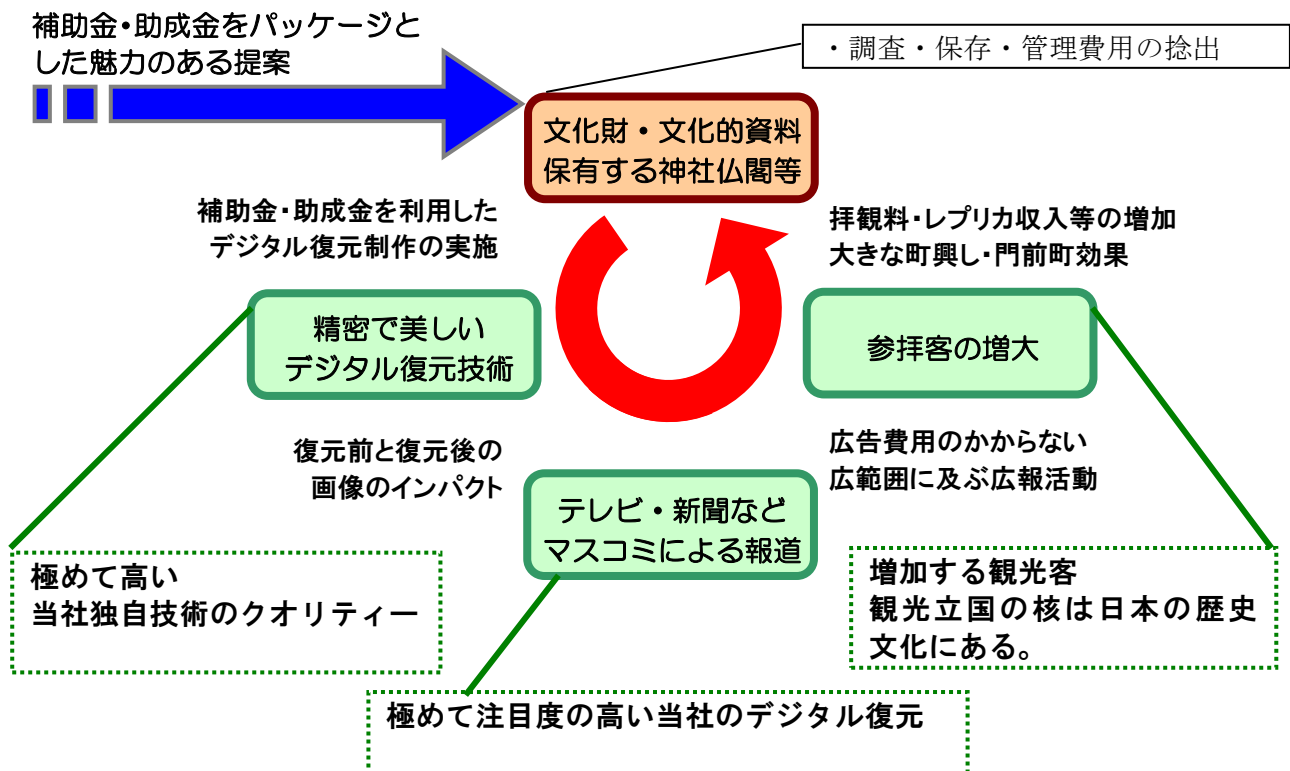
文化財を保有する神社仏閣等では、その保存・管理に相当な費用が必要です。同時に、管理保管上の負担を回避するため、文化財の指定を受けることなく保有されている神社仏閣も多いという実情があります。文化財への費用捻出は、いたずらに文化財の保護の必要性を訴えても、その実施には常に困難を伴います。そこで当社では、復元制作による経済効果を元にした提案（拝観料増加、レプリカ販売等）を行なうとともに、各種助成金・補助金をパッケージにした提案を積極的に行なっています。

(1) ご提案内容

当社は、国際的文化と歴史の都市、京都・奈良において、外国人観光客の関心の高い文化的資産を、極めて高い※**匠の技術**で復元し、多くのマスコミの注目を集め、新たな観光資源を提供して行きます。また、各種助成金・補助金をパッケージにした魅力ある提案を行ないます。

※平成19年度大阪府「なにわの名工」・平成22年度京都府「現代の名工」認定

＜ 文化財・文化的資料 活用/保存 サイクル ＞



■代表者より

デジタル復元制作をすると、報道関係の取材がとても多いものです。

報道関係者の方も、珍しいものや話題になる話には、苦勞されている様子で、対応には手間が掛かりますが、しかし、これは依頼者の方の宣伝に役立つことだと思っています。広告費を払わずに注目浴びるわけですから、観光資源に有効な、大きな仕事を手がけたいと思っています。

事例・1 「法輪寺 虚空蔵菩薩像」

<p>2008年6月 (主な報道先) ABCテレビ 京都新聞 朝日新聞 中外日報 六大新報</p>	<p>法輪寺 虚空蔵菩薩像 (京都市・嵐山) 『法輪寺 復元制作報告書』を作成。可能な限りの痕跡を求めた。依頼者の希望により、当時の荘厳さを表現するため加筆した。報告書においては、加筆の場所、程度等を明確にしている。「求聞持法」に用いられた板絵。</p>	
---	---	--

京都 嵐山・法輪寺虚空蔵菩薩像復元 報道

■ メディア掲載記録一覧 ■

報道記録(新聞・雑誌等)

京都新聞	2007年11月20日
中外日報	2009年2月26日
朝日新聞	2009年3月10日
六大新報	2009年3月5日
中外日報	2009年3月14日
中外日報	2009年3月19日

報道記録(NHK・民放・ケーブルテレビ)

ABCテレビ	2009年4月6日
--------	-----------

2009年4月6日 ABCテレビ「NEWS ゆう+」



2009年3月19日 中外日報

本尊奉告法要を厳修

本尊宝前で表白文を読み上げる藤本管長

完成を祝い、茂山忠三郎社中による狂言が奉納された

板絵本尊虚空蔵菩薩の修復が完了



修復された虚空蔵菩薩像(左)と復元した絵像

京都市西京区、真言宗五智教団法輪寺(藤本哲也住職)で十日、板絵本尊・虚空蔵菩薩像の修復と復元完了を報告する法要が厳修された。導師を務めた藤本高全五智教団管長(法輪寺副住職)は表白文で「誠に法事限りなく、感激に堪えず、よってここに深甚謝辭を表す」と読み上げ、修復・復元の完了を秘仏本尊虚空蔵菩薩に奉告した。

金箔の剥落どめなどの修復を終えた絵像は、室町時代から江戸時代初期の作といわれ、円形(九九〇×九五)の板に本尊の姿を描いた。昨年四月、京都府の補助金交付の機会を得て、修復作業に入った。同時に制作当初の絵像を再現するデジタル復元の工程にも着手。剥落どめなどの修復は柱文化財修理工房、復元は文化財復元センターに依頼した。また、同寺は信者向けに直径六〇センチのレプリカを限定で百部制作、申し込みを受け付けている。

四百年前の姿を復元

真言宗五智教団 智福山法輪寺

〒616-0006 京都市西京区嵐山虚空蔵山町
電話 075(861)0069

閉鎖された旧都文中の校ラウリシは熱戦となり、いた。運動会に出た記憶に和やかに楽しんでいる。

(樺山聡) ニテ、生活機能向上

虚空蔵菩薩の板絵

来春復元

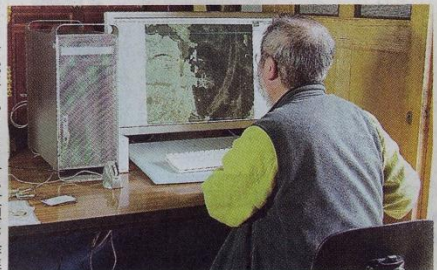
法輪寺 江戸初期の作 修行で使用



秘仏の本尊模写か

京都市西京区の法輪寺で、修行の際に使われた虚空蔵菩薩の板絵の復元作業が進んでいる。傷みが激しく、特殊なカメラを使って見えなかった部分の浮かび上がらせる。秘仏の本尊の様子を伝えていとも言われる貴重な資料で、同寺は「作者や在りも特定できずかもしれない」と期待している。

特殊カメラで消えた輪郭浮き上がらす



画像データをパソコンに取り込むスタッフ (京都市西京区・法輪寺)

板絵は、円盤状の板に虚空蔵菩薩を描いたもので、百回前後の真言宗の修行「求聞持法」を行う中の本尊として使われる。一般的には修行後に廃棄される。法輪寺の板絵は、江戸時代初期の作とみられ、右手に剣、左手に宝珠を持つ「法輪寺」の特徴を持つ。府文化財保護課は「秘仏の姿を模写している可能性もある」と、修復計画。作業は来春には完了する。奥本殿に保管されているが、絵の具がはれるなどの傷みが激しかった。枚方市の専門業者が、消えた輪郭の部分を紫外線カメラなどで撮影し、消えた線を浮かび上がらせた画像を重ね合わせ、元の姿をよみがえらせた。

虚空蔵菩薩の麗姿復元

嵐山の画像処理で400年前に

京都市西京区、真言宗(一)と呼ばれ、数百年の歴史を持つ法輪寺(本願寺)に伝わる虚空蔵菩薩の板絵(複製)が剥落した。画像処理で、約400年前の現状画像からのデジタル復元処理で、約400年前の姿が再現された。修復完了を本尊に報告する法要は、三月十日の法会上で、進捗報告と披露。また、当日に限り一般公開される。



400年前の姿をよみがえらせた復元画像

修復された画像の虚空蔵菩薩像は江戸時代初期の作といわれ、円形(九〇×九五)の板に本尊の姿を描いた。作者は不詳。金箔の剥落など劣化が激しく、以前から修復が必要とされていた。昨年四月、京都府の文化財補助事業として修復された。同寺は信者向けに修復された虚空蔵菩薩の複製を、三月十日の法会上で、進捗報告と披露。また、当日に限り一般公開される。

法輪寺の本尊・虚空蔵菩薩は、右手に宝剣、左手に如意宝珠を持つ。京都大の大学院生が、同寺の板絵を複製し、右手を削ぎ、左手に如意宝珠を持つ形を一般公開した。修復された虚空蔵菩薩の複製は、三月十日の法会上で、進捗報告と披露。また、当日に限り一般公開される。

本尊復元 迫る色彩

法輪寺、きょう一般公開



西京区嵐山の法輪寺で、求聞持法という修行に使う板絵の本尊の虚空蔵菩薩像の修復と復元作業が終わった。通常は初期のものともみられ、直径約10センチの板に、約400年前の虚空蔵菩薩の姿が再現された。修復された虚空蔵菩薩の複製は、三月十日の法会上で、進捗報告と披露。また、当日に限り一般公開される。

修復された虚空蔵菩薩像(右)と復元した絵図(左) 西京区嵐山 虚空蔵山町

1層の円形の板に漆を塗り重ね、その上に彩色されている。傷みがひどく、昨年からの補助を受けて剥落止めの修復をし、最新のデジタル技術を使って当初の姿を復元した絵図も制作した。

虚空蔵菩薩は右の手のひらを開いた「与願印」の形で下っている姿が多いが、法輪寺の像は智慧の象徴である宝剣を持つのが特徴。左手には福徳を象徴する宝珠を乗せている。弘法大師の弟子の道昌(798-876)が同寺に最初にまつた虚空蔵菩薩の姿が原型という。

10日は恒例の法会上で進捗報告と披露があり、法話や奉納狂言も予定する。問い合わせは同寺(075・861・0069)へ。




デジタル復元された「虚空蔵菩薩像」

絵図本尊復元制作も完了 来る3月10日に一般公開 法輪寺、虚空蔵修復法要

京都市西京区嵐山 虚空蔵山町 法輪寺、虚空蔵菩薩の修復と復元作業が完了した。通常は初期のものともみられ、直径約10センチの板に、約400年前の虚空蔵菩薩の姿が再現された。修復された虚空蔵菩薩の複製は、三月十日の法会上で、進捗報告と披露。また、当日に限り一般公開される。

折願祭に併せて修復完了報告法要を厳修する。当日は午後一時より法話を営み、法話の後、茂山忠三郎社中による奉納狂言が行われ、当日のみ虚空蔵菩薩は智慧、福徳、技芸と讃められ、われ法能守護として信仰を集めており、三月十三日から五月十三日まで十三まいりが行われる。本尊の虚空蔵菩薩木像平安時代作は秘仏。なお絵図本尊復元制作は合資会社文化財復元センター(大阪府枚方市・大阪府枚方市)が担当している。

(2) 事例・2「笠置寺・弥勒磨崖仏」

<p>2010年10月 (主な報道先) NHK 京都新聞 毎日新聞 朝日新聞 サンケイ新聞 中外日報</p>	<p>笠置寺 弥勒磨崖仏 (京都市笠置町笠置山29) 『笠置寺・弥勒磨崖仏 画像による復元報告』を作成。 可能な限りの痕跡を求めた。、当時の荘厳さを表現するため雰囲気演出した。報告書においては、復元の根拠等を明確にしている。「弥勒信仰」の中心となった磨崖仏</p>	
--	--	--

笠置寺 弥勒磨崖仏復元 報道

■ メディア掲載記録一覧 ■

報道記録(新聞・雑誌等)

京都新聞	2010年 8月 26日
	2010年 10月 2日
毎日新聞	2010年 8月 6日
	2010年 10月 1日
朝日新聞	2010年 10月 2日
読売新聞	2010年 10月 3日
産経新聞	2010年 10月 2日
中外日報	2010年 10月 7日

報道記録(NHK・民放・ケーブルテレビ)

NHK・京都	2010年 8月 2日
NHK・全国	2010年 10月 1日
NHK・京都	2010年 10月 26日
NHK・大阪	2010年 11月 9日
NHK・全国	2010年 11月 15日



記者会見風景

笠置寺本尊 磨崖仏、画像で再現へ
鎌倉末期焼失したとされる笠置寺(笠置町)の本尊「弥勒磨崖仏」を、デジタル画像で再現する試みを、精華町のベンチャー企業「文化財復元センター」(大隈剛田代表)が進めている。9月末まで写真パネルとして完成させる予定で、同寺の小林慶住(ちか)は「本尊の本来の姿を知りたい」と期待している。観光資源として活用したい」と期待している。

弥勒磨崖仏は、奈良13の巨大な巨匠に刻まれた菩薩の姿を、鎌倉時代の中期の作と推定され、焼失した元弘の変(1336)の際、高き約16尺、幅約1尺半の石に刻まれたとされる。鎌倉時代の中期、後醍醐天皇(1336)の御代に、高き約16尺、幅約1尺半の石に刻まれたとされる。鎌倉時代の中期、後醍醐天皇(1336)の御代に、高き約16尺、幅約1尺半の石に刻まれたとされる。

現在、笠置寺の本尊「弥勒磨崖仏」は、大野寺の石仏の模刻を合成させた試作品の写真パネルを手にする小林慶住(ちか)と、文化財復元センターの代表者(大隈剛田)とが、高き約16尺、幅約1尺半の石に刻まれたとされる。鎌倉時代の中期、後醍醐天皇(1336)の御代に、高き約16尺、幅約1尺半の石に刻まれたとされる。

デジタル画像で 大磨崖仏復元へ
笠置寺、撮影作業開始

笠置町の笠置寺が、の姿がほとんど見えなくなった。劣化が激しい本尊「弥勒磨崖仏」をデジタル画像で復元しようとする試みが始まった。寺は12年前に本尊を画像で復元しようとする試みが始まった。寺は12年前に本尊を画像で復元しようとする試みが始まった。寺は12年前に本尊を画像で復元しようとする試みが始まった。

笠置寺は「画像での復元が成功すれば、実物も元通りにしたい」と、企業で、高精細のデジタル画像を基に寺院の成果に期待している。本尊は高さ約15尺、幅約8尺ある。正月至る約20日に、線で見ると、国内最大級で、奈良時代の彫られたと、大隈剛田代表(大隈剛田)が、デジタルカメラで磨崖仏の各部や全体像を撮影した。黒ずんだ部分

京都新聞 8月12日

弥勒磨崖仏を撮影する文化財復元センターの大隈代表(笠置町・笠置寺)

復元した画像は、デジタル画像で復元しようとする試みが始まった。寺は12年前に本尊を画像で復元しようとする試みが始まった。寺は12年前に本尊を画像で復元しようとする試みが始まった。

大隈代表は、残された跡を「車にたどり、9月中旬に完成させたい」と話す。

復元した画像は、デジタル画像で復元しようとする試みが始まった。寺は12年前に本尊を画像で復元しようとする試みが始まった。寺は12年前に本尊を画像で復元しようとする試みが始まった。

毎日新聞 8月6日

面業相当のカメラで、赤外線撮影や紫外線撮影の技術を使い、わずかに残った凹凸を撮影。岩に刻まれた文字が、表面が風化して不鮮明になった磨崖仏の文字を復元させた形跡があり、なかなか形をとり戻したという。

磨崖仏を再現するといふ、同センターの大隈代表は「表面が風化して不鮮明になった磨崖仏の文字を復元させた形跡があり、なかなか形をとり戻したという。」

デジタル技術でよみがえる

岩の表面が落剥してしまった現在の本尊 デジタル画像で再現された本尊・弥勒菩薩像



消えた磨崖仏を再現

真言宗智山派笠置寺

表面が落剥して発見された弥勒菩薩像をよみがえらせた。笠置寺の本尊弥勒菩薩像は、約680年前に造られたとされる。現在は表面が落剥した状態で、デジタル画像で再現された。この画像は、約680年前の姿を再現し、観光客に提供されている。

笠置寺の本尊弥勒菩薩像は、約680年前に造られたとされる。現在は表面が落剥した状態で、デジタル画像で再現された。この画像は、約680年前の姿を再現し、観光客に提供されている。

680年前の本尊弥勒菩薩 岩の痕跡から探し出す

MAINICHI

新毎日

夕刊

10月1日(金)

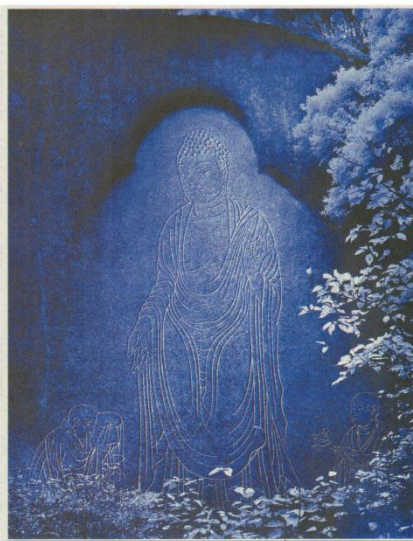
2010年(平成22年)

発行所：大阪府北区南船場3丁目4番5号
〒535-8251 電話：(06)6346-1051
毎日新聞大阪本社

科学の目で見えた



約680年前のデジタル画像で復元された本尊弥勒菩薩像は、目を残したままの状態で発見された。デジタル画像で復元された本尊弥勒菩薩像は、目を残したままの状態で発見された。

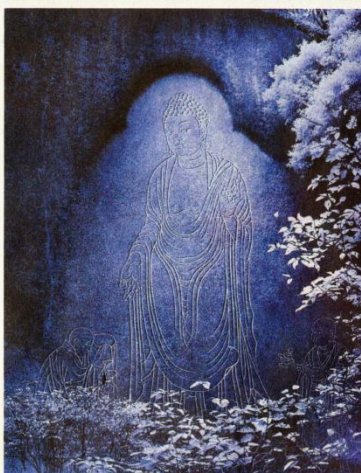


磨崖仏 デジタルで復元

鎌倉時代の兵火で壊滅して見えなくなった笠置寺(京都府笠置町)の本尊弥勒菩薩像が、1日、同府精華町のベンチャー企業「文化財復元センター」(大阪府中津市)の手でデジタル画像で復元された。1面に写真、高さ16センチの巨匠に残るわずかな凹凸を手がかりに、平安朝の彫刻師の意匠を集めた巨大な像の姿が浮かび上がった。

文化財復元センターは、約1300年前の彫刻した花崗岩の巨匠、線刻で弥勒菩薩立像が刻まれた。8世紀に大陸から渡来した技術者が彫ったと伝わり、最古級の当時最大の磨崖仏とされる。未だ想像で弥勒菩薩像が浮かび上がった。平安朝の彫刻師の意匠が集めた巨大な像の姿が浮かび上がった。

国内最古級 後醍醐天皇拳兵の際に焼失



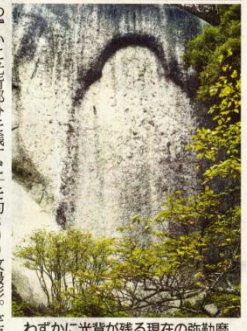
デジタル画像で理想復元され、約680年ぶりに線刻が浮かび上がった笠置寺の弥勒菩薩像 (文化財復元センター提供)

弥勒菩薩は、笠置寺の。しかし、後醍醐天皇が鎌倉時代の兵火で倒すため拳兵した。文化財復元センターは、今年7月から、特注の高性能カメラを使い、赤外線レーザーで岩の表面に残る凹凸を浮き上がらせた。

笠置寺 680年ぶりお姿拝見

文化財復元センター 磨崖仏をデジタル復元

鎌倉時代末期の元弘の変に焼失した国内最古級の巨大な石像、笠置町の笠置寺の「弥勒菩薩像」がデジタル画像で理想復元され、手がけたベンチャー企業「文化財復元センター」(精華町)が1日発表した。巨匠に残るわずかな凹凸などを手がかりに、最新技術を駆使した復元。高さ約15センチ、幅約12センチの弥勒菩薩像が浮かび上がった。約680年ぶりに浮かび上がった。



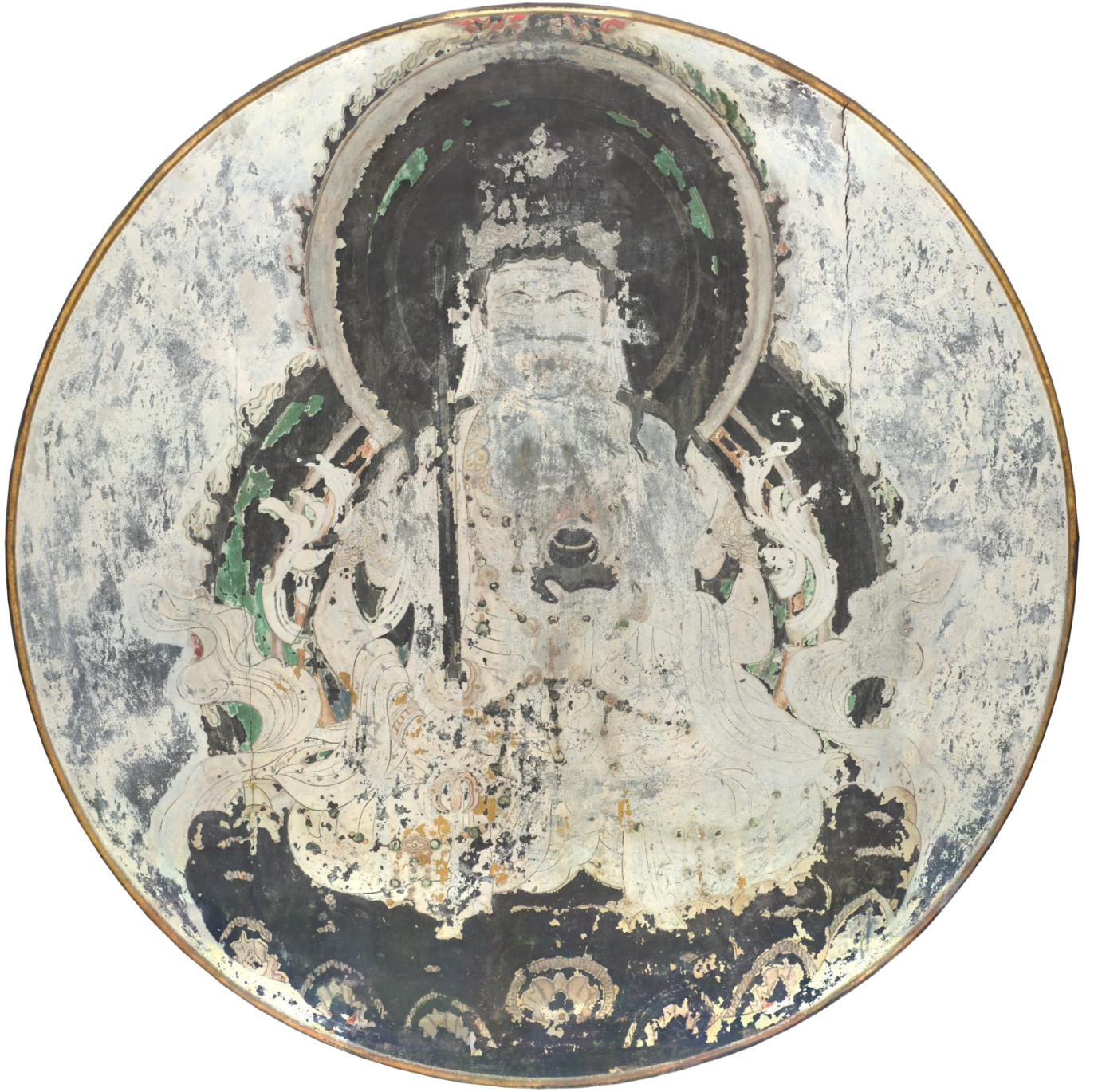
わずかに光背が残る現在の弥勒菩薩像 (文化財復元センター提供)

わずかに光背部分を残した弥勒菩薩像をモデルにしたとされる室生大野寺(奈良県宇陀市)の弥勒菩薩像などを参考に、3カ月かけてパノコン画像で画像処理、線刻を浮かび上がらせた。

デジタル画像では、夜の月明かりに照らし出される仏と、けさも香炉を持つ弟子二人の姿が優美に表現されている。また、これまで1つひとつで論争のあった弥勒菩薩の蓮華座は、1つとした。

笠置寺では今後、デジタル画像を額に入れ、本堂に展示する予定。小林慶範住職は「復元はかなり前から願っていたが、やっと実現できた。いつかは岩に直接線刻をよみがえらせた」と話している。

法輪寺 虚空蔵菩薩像 現状画像



虛空藏菩薩像 復元画像



笠置寺 弥勒磨崖仏 現状画像



笠置寺 弥勒磨崖仏 復元画像



〒619-0237
京都府相楽郡精華町光台1丁目7
けいはんなプラザ ラボ棟5階
TEL 050-1058-8025

(資)文化財復元センター
代表 大隈 剛由

Eメールアドレス oukuma@fukugen.co.jp
URL <http://www.fukugen.co.jp/>
<http://www.fukugen.co.jp/npo/>